



新板
繪入
新鑑草
四



9
3448
4

新鑑草



入板

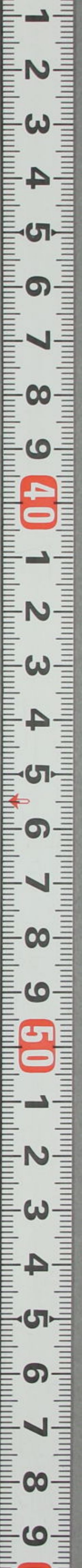
新鑑草

四



9
3448
4

新鑑草



3448

第一

宋明常天と行て事と約る事

青銅府小宋明常



年二十餘歳小... 身合切けり... 我一生の事... 大孝行と... と高次と...

浅久

横濱 木村屋



口口
3448
4

第一 宋明常天と行て事とけり事

青川府

青川府小宋明常と云わく一人の老母小母をて孝行たり今
年二十餘歳小母をて事とけり親類と婚友をて
身合初ける位下已小二十餘歳婚礼と潤今より不孝なる
我の婚友さん小色親類と事何れと頼小攢撥をて宋明常
母小不孝なる事と事と決して兼小母をて事と感
宋明常と云て事とけり事とけり事とけり事とけり事とけり
我の生れ何れと事とけり事とけり事とけり事とけり事とけり
大孝行と云て事とけり事とけり事とけり事とけり事とけり
と高行と云て婚礼と潤今より不孝なる事と感

久
木村屋

馬

六

一

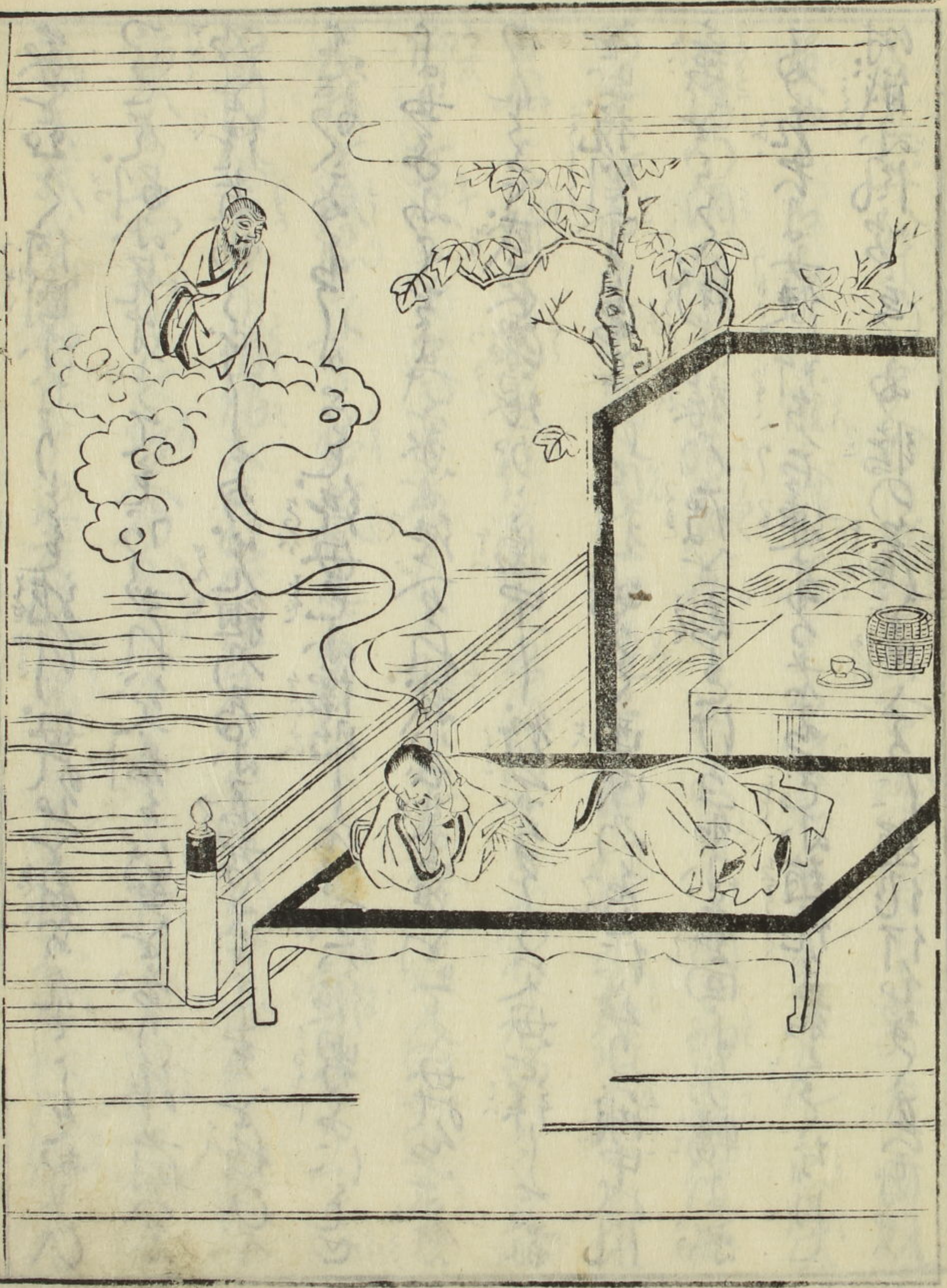
大平あり。... 孝行する賢女と一人... 肝膽をこぼし...
 ... 親類を... 嫁と... 母を... 天を... 孝を...
 ... 母を... 天を... 孝を... 親類を... 嫁と... 母を... 天を... 孝を...

孝行する賢女と一人... 肝膽をこぼし...
 ... 親類を... 嫁と... 母を... 天を... 孝を...
 ... 母を... 天を... 孝を... 親類を... 嫁と... 母を... 天を... 孝を...

とくし 福をくくると能く其の業を成すは
 尤も浪を恨み我已不七十小節の初めは
 可也 明日死すも是と今生に思ひ死す事
 恨む多し 文母を不大恨し 是より 家直業する事

身二 趙作孝念ありて福と為る事

昔日 蘇州府小趙作と云 其女あり 姓母小事 ても孝行と
 是より されも 終母を 趙作 情に 程興小 極く 練言と
 けり 六程 興半 後一 半 親に 折し ぬく 練言 せん けり 云
 けり ぬに 終母 已不 懐胎 小節 一の 浮趙作 情事 甚し
 趙作 心より 小節 一の 我の家 母を 思ひ 速く



とて鑑ひのそ月舟逢中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより

あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより
あひの道一た三つねあ中不能くもくもあはれりしより

親とて僕一問明日の心と王老翁の自れもいふはあつた
密不用とて一々待たせよとあつたりんるは花もつとてあつた
忽化しりり趙他を破るん中になつた鐘りたつとてあつた
には老翁のまゝあつたとてあつた今せよとあつたの昔あつた
ま決まらぬとあつた月あつたとあつたとあつたとあつた
あつたとあつたとあつたとあつたとあつたとあつた
小住を酒店陳述の家へ行く趙他もいふとあつた
人何れ我と宿酒治とてあつたとあつたとあつた
王老翁をて同じく月あつたとあつたとあつた
何れは陳述若とてあつたとあつたとあつた

清海よりほ堂より一海と行不用申わつた通つた
道すのあつたりけり趙他を破るんと王老翁を述つた
つとあつたやあつた王老翁を破るんと趙他を破るん
中住はひとあつたとあつたとあつたとあつた
色は方と我とてあつたとあつたとあつたとあつた
趙作はまとあつたり甲其とあつたとあつた
あつたとあつたとあつたとあつたとあつた
とあつたとあつたとあつたとあつたとあつた
かしてあつたとあつたとあつたとあつたとあつた

備者小趙作が人あはしく好むの斜あらしむはる増明の法
 儀定し。吉月と梅と小畑と趙作小嫁世清くぬ盟とてはし
 己より先流美の如くし。早しとせもはしむき年抗別
 ころ同趙作自らし。一とせもはしむき年抗別
 趙作小畑やうある男とて流し。己死の信小畑より趙作
 大小哭き我がよはせ。五百年此壽と流し。しとて石便かき世に
 追慕しと得せん。しとて。小趙と趙作名はる信と請待し
 しとて。小畑ひくろ趙作其子と抱て家より流し。流して
 始流し流し。しとて。老翁と梅葉月小畑大小感し。其子と趙作
 と名付し。寵愛限る。其子と成長し。十六歳のとき。其子と



あり二十歳のまゝ宿小僧の家を感ずるも皆趙能の徒母
小考と云ふも天より恵賜の福を人々感ずる也

第二 林雄前非と改て再ハ立身志す事

福州府小持雄と云ふあり今年二十歳のなり天然と云ふ氣
凡流ありて琴棋書画吹簫歌舞小花街を構ふる遊
一のやうに知れどもまじりて其は福州乃花街小自連紅梅と
もあ人の名あり林雄年久しくいある小遊深着干の金銀と
費一これ其父林之使亦あり遊小持雄と遊遊より林雄原孝
念ある者なきも百万存悔して思ふや我多年父の心小僧と
しれがく後まきし身とるぬる社あり社今日より改

わく學問と勤めてび立身して父の憤りと体りやと目く非
と如く過ぬぬ常に花街に付ひたり對閑陳徳と云者あり尚
ふ憤りて父の好遊とゆりし事を悔し後りゆせどもあり尚
小僧の事同と他りせんといふを陳徳史如く小僧を悔ハ行遊
の身とありあふ今と果た小僧一の所也只拙由來程
ゆゑに親しき人ともなりどもて盛衰患多かりん四五六月
もいふ小僧留わりし遊海ありあの名好なり今てび立身
とある事とも憤りあつて林雄史如く若彼等と事なば父をわ
るし事と思ひ出り憂ふもわくも如く心と悔と絶さざりし
志來別もりし心と小僧とせんとも陳徳史如く

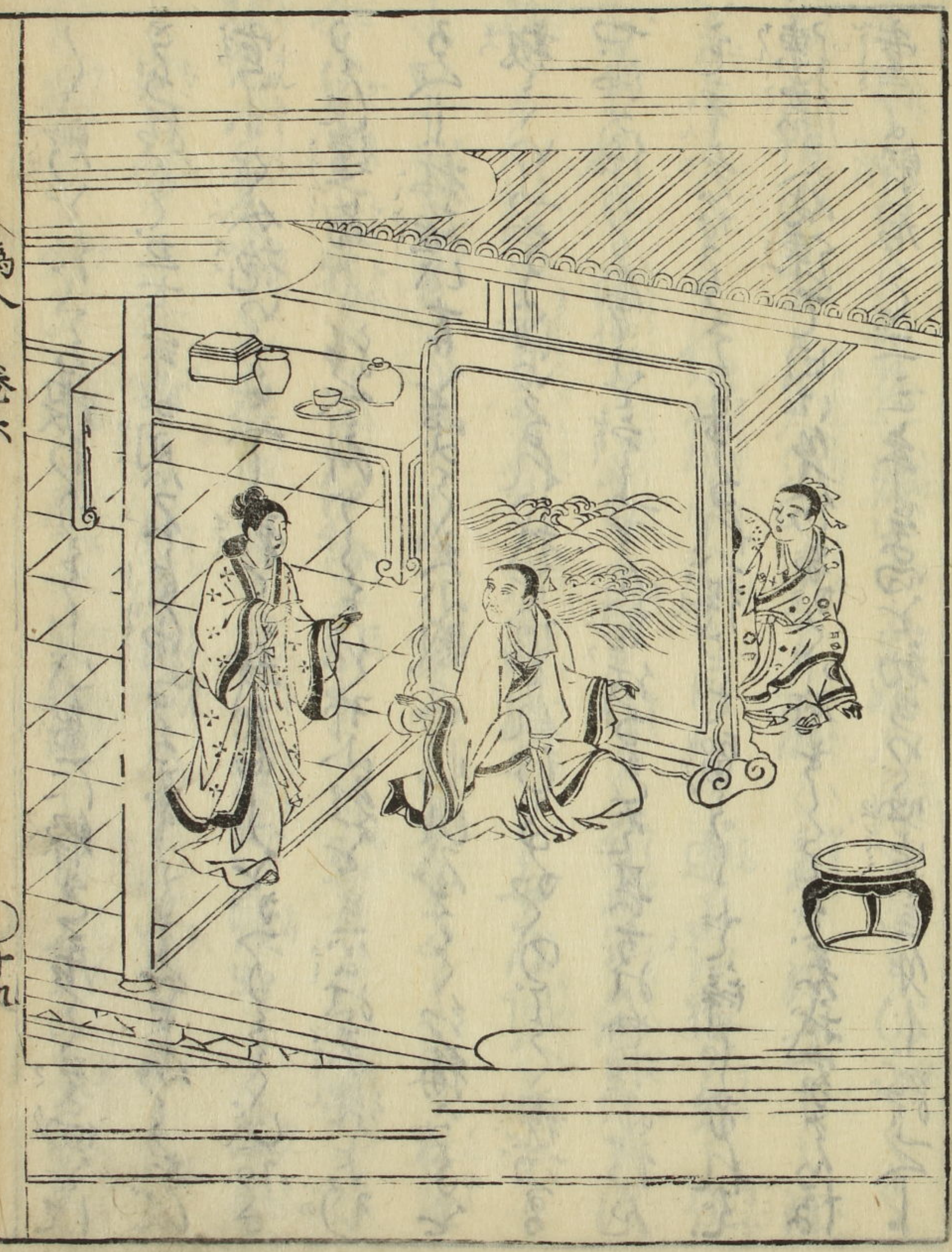
とらひて社住め家小白蓮が方小若かしきられた白蓮者此の
 小思ひのくまの村面と陳徳と云やう林権公這回親父と
 軒逐と云ふもさうも南系に執んとあつたよさう今てびを
 せ進さんと思ひ梅さうかしき侍る今更ハ志小歌の巨れ別を
 情もさ白蓮い言とさうく勿替ひの又あつたも梅の御公軒逐
 と云ふのめや梅許共止すの事さうもいふいふさうさう
 別もさうさうさう度住た意切の春はさうさ進さんよ
 びさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさう陳徳史物只頼留さうさうさうさうさうさうさう
 いさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさう社住め家小白蓮が方小若かしきられた白蓮者此の
 小思ひのくまの村面と陳徳と云やう林権公這回親父と
 軒逐と云ふもさうも南系に執んとあつたよさう今てびを
 せ進さんと思ひ梅さうかしき侍る今更ハ志小歌の巨れ別を
 情もさ白蓮い言とさうく勿替ひの又あつたも梅の御公軒逐
 と云ふのめや梅許共止すの事さうもいふいふさうさうさう
 別もさうさうさう度住た意切の春はさうさ進さんよ
 びさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさう陳徳史物只頼留さうさうさうさうさうさうさう
 いさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

してはづるまゝとらぶきおとと憤りたけおふらぞ酒を
 の深徳丈ぬ酒と酌りてまらと慰らん借入紅梅之り林
 雄が消息とぞぞ渴想の始りとも取自く深徳がさるるや
 夢とぞこれ林雄酒酌の長より妙術はくまう入る林雄が
 そも亦白蓮の如かりんや夢う言ふ解んくけもた紅梅早
 進の社ともし情の恨てまう。知らぬ我とぞと解んく
 かつて酒白歩級と音耗と一はの結りお存とまらう。
 誠一園のんをむとぞ抑り悔りみくたふらうの節め
 空一夕の易かり留とみ知りはいつことを流石おれらう
 の事れも別も暮ひのり音灰小思ひと焦とてつを今ハ

備一白蓮は情の愛のひ紅梅の古板小おるるをとて何
 ぞとと只偏向した白蓮ととと嫉妬と含んで恨らう林雄
 冷然と世の虚泣とてこれと我も今軒逐のゆれぬ小庭
 子ら者され人の情も何さす早く解りまと酒をまらう
 され紅梅小庭に何軒逐と夢ありとと夫の美の嗚呼悲
 やと嘆沈しと所深徳丈ぬがまら林雄云遠回親父の家と
 進がされ進自由京小館んととあふふらせうと利きも
 情もせりと身とと心ひ先刻白蓮と噂くをを近くまら
 白蓮早くもふらう林雄云負之と欺く情をと援れを
 みるつらにたげ身とと何だ流るれ動かれ白蓮と夢らさ

んとんやきりしゆひ儘も解きし仰き侍り申すも
 日比の好むれはるる今宵は色に色ぬり名跡
 ともかくなき細く我言史ぬの者さてもうら
 かんや色紅梅酒と酒ひびくやう白蓮とくうと道
 ごとく思ひきりしゆも恨もさへ人免とさき角もあ
 家小籠くハ伝書と林堆と暮るひけりよあつるあ
 や能ひ行逐と受てまよとあつるど憂ひの向ふ事か
 白はあ非とぬりく立身と逐あつる親とさきと信び
 さきひ終る行逐と免り終る一備南糸ふと親顔明
 なつるもあつるうぐれ雅と雅はけくを結りんや幸我か



為八

卷六

く贈とてはる浪ありき一けふに縣を形くその向に
さあ終て五七年が同じ不自由なる事もなすらん
寧く女抱とて一形く我が志しおつらん
日と運留一終るるも私林小形と云ふは立身と行
ろへ一林雄は言と笑く大小感く恨ひをさく御梅とて
執りつらふはつる我とつれむののぞく親切あり
や油が信ありと云とそよまんは何る事と其方れ女抱小形は
を卒をなつらん事され得て留くや辭しおれども
陳徳文ゆ凍て日ほ身何おぐ御きくそぞ若我家さんほ
堂一解居く二三年まよと勤まりて必定立身一終る下

て節とてはる梅と贈出一丈ぬり終とていび永くま
忍く終るもそ乃人道の信あり終くまゝ終る一と理
まゝくくやこれ林雄実りといふ一運一紅梅がそ小従
もあそれら陳徳が信堂一解居信く直衣はそ何きとて此
初めら信紅梅毎日英食と信時服も毎度個々あり
一のし信も是する事しかく早やと事とて一林雄
今も孝文成終一紅梅は利まると云ふ一と果くと
状元なる事の中へ大官となり早速紅梅と贈出く本妻
と定め終る父は終る事終る事と終る事と終る父
も感して終る事と準へ郡一家和睦く一益其家終る事

より梅は白蓮八林権が魁とりとなく盟小員さし報ひ
しや行ち揚梅瘡と病ぐ思あきき作とちう梅白惚て
死小やうとちう人吹く人ひかと思まぬ者ハなりきうされぬ
梅が毒と白蓮が毒とちうとちうとちうとちうとちうとちうと
知と 西湖小説やうし書にけりて載り

新編李包之六終

第一 揚備城隘と構て金とけり半



徽州府は揚備と云商人のり父母に事て甚と孝の成りら
運命悪くと恙干れ恨と損失一家新と喜へしうとちう
小替ら義食英酒とちう父母は備平生悦しき事ぬ清
その父母は世偏よ親の心と慰めける父母より肩賣りま
同利と清らとちう昔て換とちうと清らとちうと清らとちう
の損失小家賊等とちう愛愛今父母は借んらる酒食と
求りしけり只願はずと患は城隘とあしと清らとちう
我一生の中絶分らとちう困窮とちうを今日とちう
父母と養ひのり貧窮乃体とちうとちうとちうとちうとちう

老婦の樂〜〜式得〜り小明日より親小信んごらるる
 とも求〜〜れ神明我と棄あ〜ん息の福と情は
 其後よ我が寿令式滅〜ぬ若然〜父母〜たに喜ひぬ
 其後我令此終〜ん毛以〜恨を致〜す此靈臨〜福し
 あり〜〜因と流〜してこれ神〜神あり坐〜してるけら
 貴〜〜と〜〜と睡〜〜神明も其孝令式感〜ぬ
 福〜〜小身〜福も揚〜小若あ〜や海原〜生の中に
 のつわ〜父母と〜命に替〜福と求〜すを切か
 る念〜我汝の志〜感〜〜天帝小斯〜奏〜も六

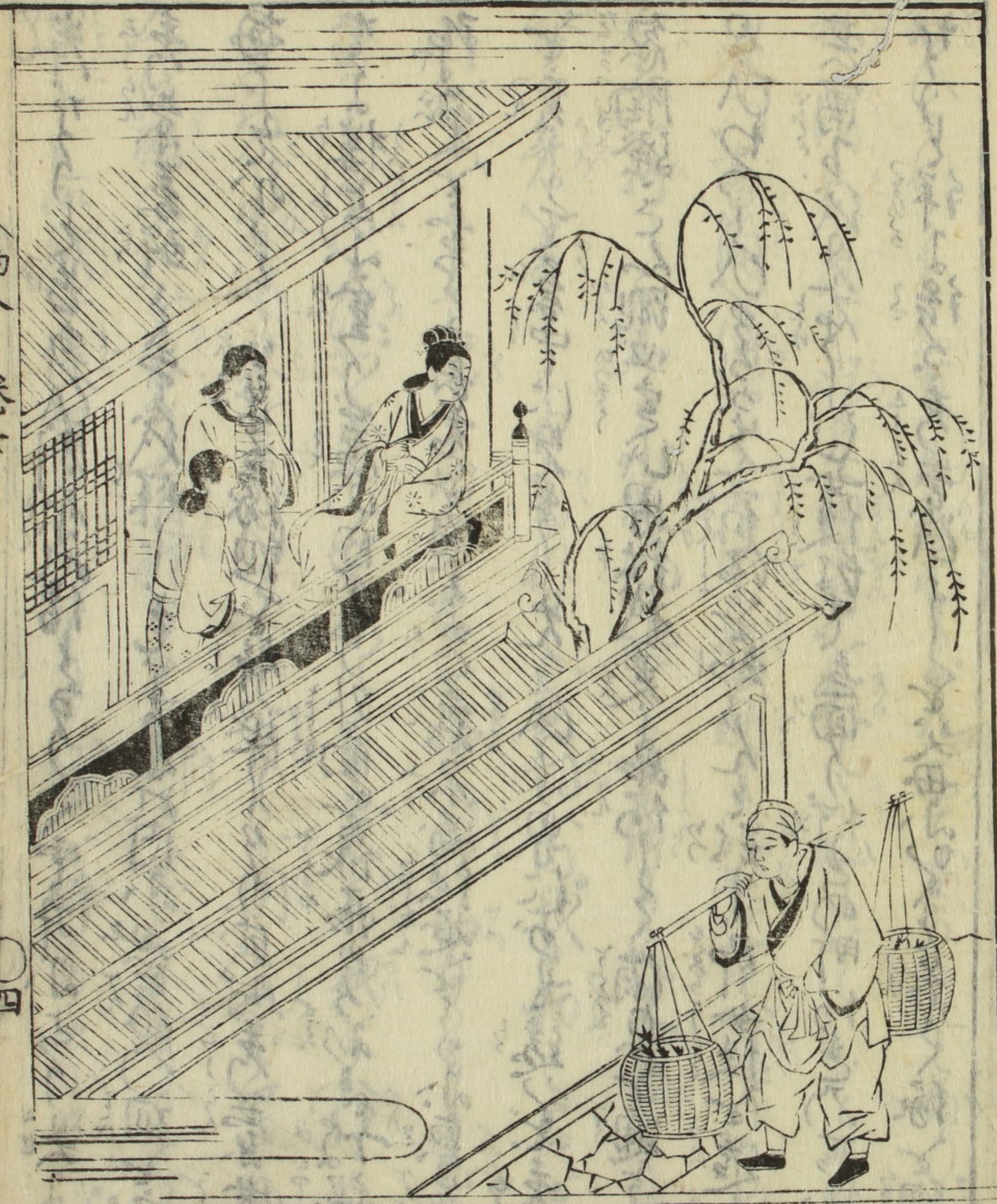
天部も木所感斜〜り〜に汝の子孫の由と味〜あ〜七
 代の孫小大富〜者あり今彼が室の門二千令式情〜あひて
 小〜〜家小回〜〜松の樹れ信〜と堀
 て思〜〜金と〜〜金〜〜神は
 其のひかり揚〜〜感嘆肝〜心〜神神明〜神附
 家小回〜松の樹れ信〜と掃〜ぬ小果〜〜一千金〜堀
 一ぬ〜〜孝〜〜て父母と養死〜其身一生〜中
 あり〜〜免〜〜壽七十餘歳〜〜遂小若果
 堀〜〜夫若〜〜徳〜〜者〜〜命負〜と
 一〜〜天の社〜〜福と得〜相書小所謂人相

志心お小娘と記しつゝ、そなたの人相と、この面の相とあり、
紙の面の相と、つりとも昔と、あふ相と、何と、何と、
いと富と、や、猫まぐと、袖と、其、能、執、古、今、女、の、と、
庭、お、湖、小、説、と、い、ふ、小、娘、と、い、ふ

第一 秀蘭惠岸社教と受て張延と鹽内本

南京よ、張、栄、と、い、ふ、者、き、介、介、子、小、娘、也、と、い、ふ、者、わ、り、物、の、
管、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、
父母も、其、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、
後、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、
わ、り、只、一、人、の、女、兒、と、特、と、名、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、
い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、

比較し、凡、人、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、
者、を、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、
兼、引、き、た、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、
物、を、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、
汝、常、小、親、音、代、信、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、
河、の、水、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、
高、位、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、
形、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、
が、夫、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、
とも、決、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、い、ふ、者、と、



岸なりと告めし則原は借ともしく申升ふより夫より
青葉美醒くや成祥しそらら内小惠なる河と守り
扱しと外と云ふ縁組と辞退したり或時考葉女使と
ちよ樓上小堂より差のりより外面と泳形々の小舟張延
即葉と書く共前と通る考葉不為張延とら小惠若死
と書して夢中に見き先あひ一男にかも遠くと考葉
忽胸證とん跳必定は男社我夫は始何とく消息と通る書
思ひわつひくら先宿はと知んと云一即女使と遣して
共寓下は日と夜し女使出てき回し作きの町何と云ふ人
なりと祥は得る考葉いふと父母小くと云く縁と組を

欲ひされがと若方一葉夜あふんてあうんと商り索然
私に消息と通し女使親書を頼て夫ぬはししとあひ書め
一通の書簡と傳てて復は物と晴し張延が方小送りかれ張
延と扱しとみろ小葉風流なる書体もく文句も情と
合と考葉と書くも書れから共初小自裁初と云と云
し考葉とて運と云ひと云と云切と云と云
あうと考葉と深かへと考葉と考葉と考葉と考葉と考葉と
つと今考葉と女使と葉内とて月と園と考葉と考葉と
ん成形ひにと考葉と道理かと考葉と考葉と考葉と考葉と
心しと張と候と考葉と考葉と考葉と考葉と考葉と考葉と

讀畢て其使小日らう。汝は是(是)を(是)め(め)く(く)ら(ら)ん(ん)我(我)の(の)如(如)く(く)後(後)
 き者小(小)争(争)り(り)去(去)り(り)茶(茶)小(小)姐(姐)の(の)と(と)り(り)め(め)ら(ら)れ(れ)る(る)所(所)を(を)来(来)れ(れ)り(り)
 小(小)使(使)と(と)名(名)を(を)来(来)人(人)も(も)り(り)て(て)尚(尚)外(外)と(と)名(名)を(を)り(り)て(て)其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)ば(ば)
 使(使)打(打)多(多)く(く)言(言)う(う)今日(今日)亦(亦)茶(茶)小(小)姐(姐)不(不)思(思)後(後)に(に)若(若)は(は)目(目)に(に)深(深)深(深)と(と)思(思)ひ(ひ)
 小(小)使(使)の(の)目(目)を(を)け(け)て(て)一(一)通(通)の(の)書(書)簡(簡)を(を)送(送)り(り)け(け)り(り)て(て)其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)全(全)人(人)
 差(差)あ(あ)り(り)て(て)是(是)れ(れ)は(は)其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 再(再)一(一)通(通)の(の)書(書)簡(簡)を(を)送(送)り(り)け(け)り(り)て(て)其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 され(され)今(今)は(は)何(何)ら(ら)の(の)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)

極(極)や(や)ん(ん)今(今)は(は)一(一)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 り(り)て(て)其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)
 其(其)の(の)心(心)を(を)し(し)ら(ら)ず(ず)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)め(め)り(り)し(し)る(る)事(事)と(と)思(思)ひ(ひ)

ひろくつとて信を回とて心も法延が同我天然まよと
 嘗の節の何ら燭と兼て書指まらうと今日の波
 事ふらひも事なまら成徳さす只もこの然とす所
 あり秀宗をこつるうがくも何とて君と極しふ
 似れりや一かたつとて我親の極く負ひたる
 我自らも亦かくれ私蓄あり我もまらん狂ふ今より
 南堂と休まら一節も事なまらと心も日夜静まら抑へる
 進みん若精疲さの時我の方まらんと感あり
 く女抱はんと憑くも法延大感悦して道
 しく我と救あり今より首夜息らんと同と誓ひ

是れと過し我か一も業たと水よりみりて若き
 こと女の方親もまらんと信ん法身はあると事なまら
 抱えられも今もまらんと事なまらと報せんて法
 信びまら何ふまはらんと信ん法と信んまら
 かけつるも一先敬せまらんと床れり信ん法延考
 常事なまらも個度れば流石と善哉の引合を
 一難しとこれ水に盟と結つて其末に誓ひて事なまら
 一難しとこれ信ん法延の誓ひて事なまら
 一難しとこれ早五更の鐘と御書一かめか人目と信ん
 として法延は海にまらんと時分漏る信ん法延の誓ひて事なまら

是れ先きおれ使用よごりしものさへもく時に見他遊了ん
 ぬしなれしと仰せけし女使又衣服二を持てん
 事しく強延令を衣裏と取收り礼と送とけり解りたる者
 角々圍の内より送く正明日れ後とて言ひ申す
 らせをやと物申しと別とくら強延を翌日より商と仰め
 一味「孝女」と朝も取に二更の時かりし者若くは小意
 一年のりしや何処におもふか懐胎し身小なりたれ父母に
 是と仰りた小意を極子と仰り今「若くは事」極と未又
 東に就もれ御初と事し「孝女」を申す事ありしと仰り
 伴小徳く文もと強延と聞くと着る由懐胎したる事直し

若し父母に事く強延を仰りてはせん強延とせん
 必きゆある者がしりし事強延と仰りて即時小使と申す
 強延も強延と仰りてと仰りし我を強延と申す小徳く身乃
 上小冠をやりんと圖り早速使と打連小姐が父事成を仰
 事ある事強延と仰りて今強延と申す小徳く強延と仰りて
 何もの事強延と仰りて事成を原集博を仰りて歴代に於て事
 候と仰りて事成を仰りて強延と仰りて水れ如し「孝女」
 之辭を強延と仰りて我が婿小徳く強延と仰りて事
 女と仰りて酒宴と設けし終日侍候し遂に婿と仰りて
 事成を強延と仰りて強延と仰りて決り年及事成の中「果し

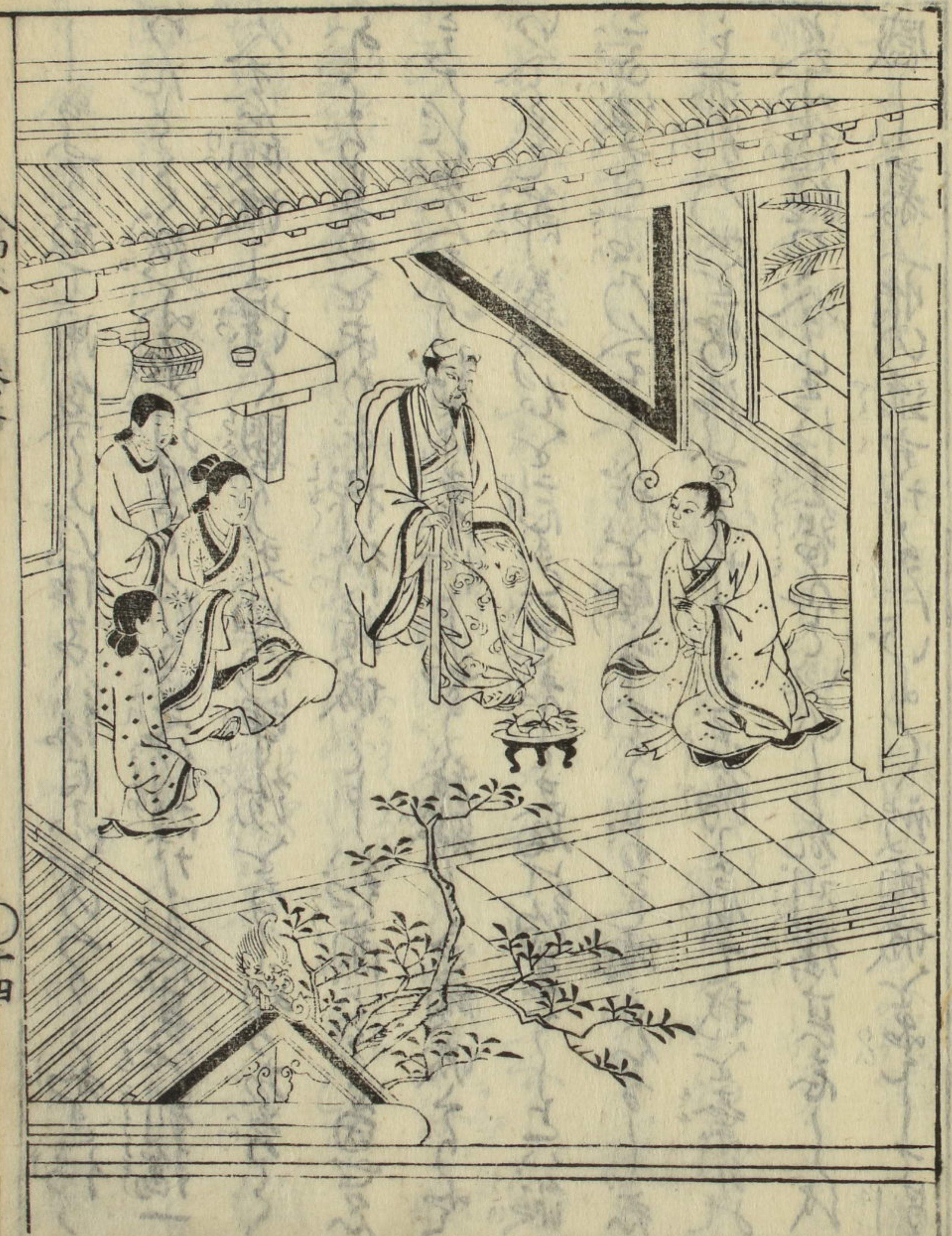
孝女

孝女

この大官より子孫絶えぬに備へる者外に流るる人
人精嘆一ころころ好後集一戦侍ら

劉瑤月花と娶事

南京を天府の城外に劉瑤といふ貧者あり生質賤めし
その心量豊潤なりとれは是れ小女とて送んとて遊者數
有るもそのことを劉瑤曾て承元守親類朋友より傳て
きり其下何ゆ事と承元は婿を以て人間一生の事
しそ人々を欲事能とて己は二十小好く只願はれん
宜のくも早に婚姻と相定進んて其後少くも一割
儲りたる我原果ある子細とて其後流るるを白傳云



一のよを散て用ひうらに極子後日小のうら
 りんともはな小出引せりけるは是行故なき其は劉瑞一
 人との傾城は深く關り支ぬる陣物とありわらおあり
 かより事あり来りど押御傾城と申し紅蘭と申す
 さらば美人あり紅蘭常にゆや我賤き傾城より
 りとも節義ありを志しと志と支ぬる約事と云は
 くる位なる宮乃人そと我と要ありともおを傾城と申す
 と亦別乃女と要あり事なるも若約の負て我と棄れ此
 久小極流り今生は生若んといひ一は劉瑞其志一は
 感一慕一情の遠方がたげよく彼傾城と申して別

の女よと云ふはまらしく早に睦しく關けるやよは傾
 と痛と云ふ事と用りしをとも強き目と極くは若しよを
 かりし一は晴小劉瑞と振りてあり我病使ふと云ん事
 かしら流りよと云ふは妹乃月花今定と一は小わ我若
 相思ふ妹と云ふは事と一は心別乃女と關ありと云は
 此のよを流りてと云ふは劉瑞泪と流し我己小海
 と受事り長志と云ふは恨んや死に妹月花と今宵い
 傾城を事と云ふは妹乃月花と云ふは二世は製物と云ふは
 蘭大は恨び弟妹と云ふは劉瑞と過しは押は月花と
 一は今年十七歳として其同形せり若くは信乃冬色姉

紅南小芳ら守。劉瑤は体ていとて心代こしろ小娘こぢやうハ那時なとき小文こぶん如
の辨物へんぶつまゝ。これハ紅棠こうたうハ入娘いぢやうハ其叔そのしやく邊へ小ことて成なるぬ。
劉瑤りゆうぎやう月花げつかたつて遊あそびらる。其屍そのしかばねと懇こころをこめて小葬こさうハ代しろり遊あそびらるまじ。
己小百箇おのひやくかん目過めとほては。劉瑤りゆうぎやう即すなはち月花げつかと裏水うらみづとて。細こま細こまり。
それハ劉瑤りゆうぎやう母ははハ今年こゝね七旬しちじゆんハ遊あそびらる。月花げつかハ貌かほ賦ふハ一ひとつり
ざりてみんぢ申まをさハ針はりあつて。怪あやまハ劉瑤りゆうぎやうハ對むかひハてま。母
月花げつかと裏うらハ申まをさハ大おほなる事ことあり。爲なさむと家いえ負おそハて。媳こよめハ
難儀なんぎと申まをさらる。申まをさらる。とて。ハ家の毒いけのどくあり。我われと對むかひセハ。遊あそびらる
とて。申まをさらる。其その弟あにいむとて。申まをさらる。此こゝハ遊あそびらる。遊あそびらる。
其その他ほか國くにハ申まをさらる。高堂たうたうとて。申まをさらる。仕合しあひあひ願ねがハて。申まをさらる。申まをさらる。

と等つらハ申まをさらる。申まをさらる。とて。憑よハて。申まをさらる。劉瑤りゆうぎやうハ此こゝハ今
母ははと稱なづハ我われと母ははに。心こゝろわりのとて。老母らうぼと稱なづらる。今
とて。申まをさらる。其その弟あにいむとて。申まをさらる。何なにハ申まをさらる。申まをさらる。
とて。備月花びやくげつかハ對むかひハて。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。
とて。申まをさらる。相別あひわかハて。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。
とて。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。
とて。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。
とて。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。
とて。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。
とて。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。
とて。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。申まをさらる。

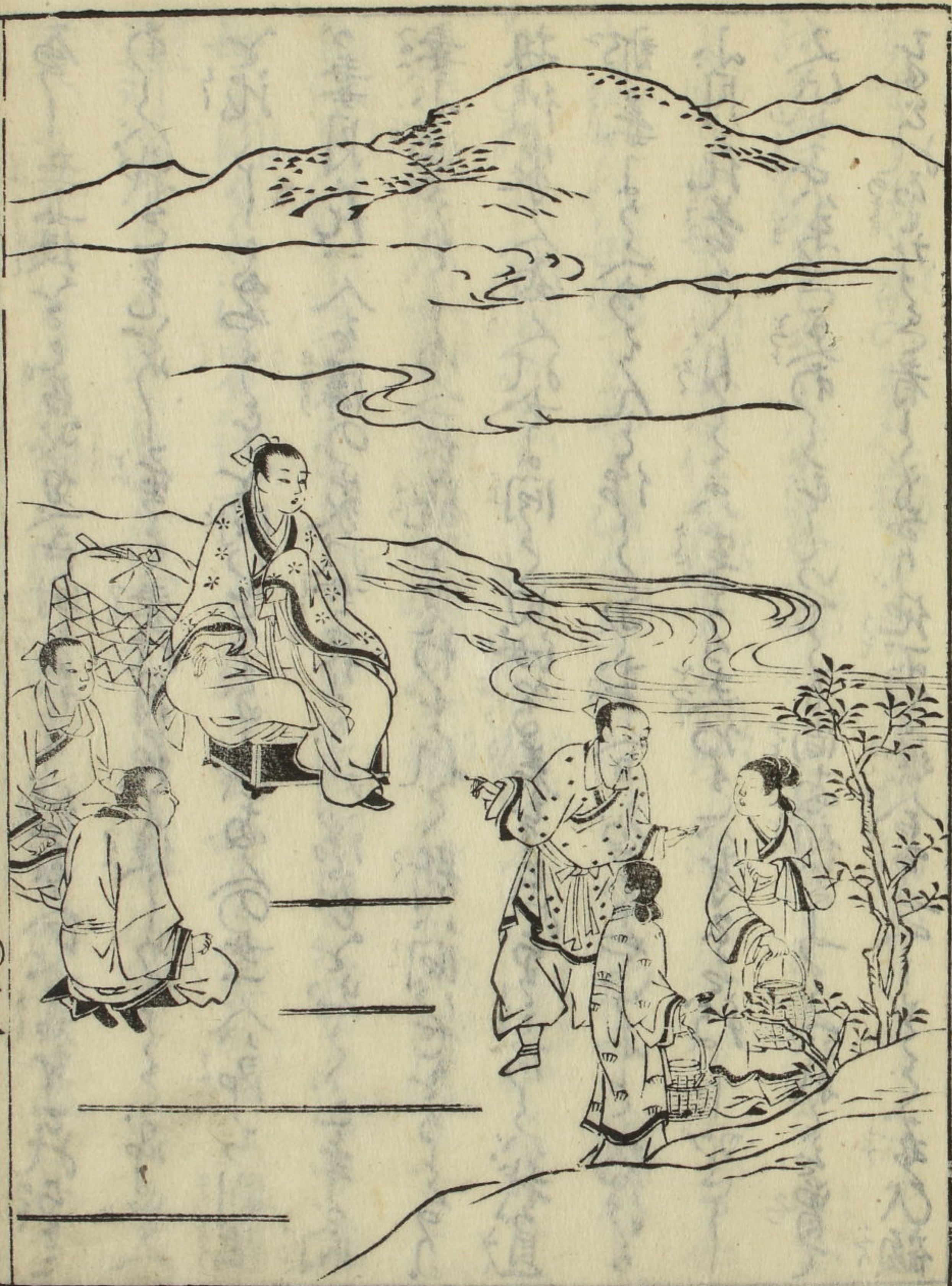
一人

五十一

然水小りと後一永く運命一終るも母は年々自は思ひ
 怨むも人老ふは命のく作り幾年するを任合ふ遇ふこと
 を運命のく一神流れ着て我兒と合ふ流しく扱
 へるにむすくと氣遣ひをくくど美者目と扱へく神流れ之佳と
 一劉瑤と名はむ此乃如くそのり一さん座あるよ我は
 急仕合なりんや三年れりよ思ひどゆりよさん其の母
 憂れく昔不吉方右と申す一徽州乃城下(古下)商賣と
 申かろ國といひ殊支心曲れ人しと白人とまはりては
 一と一氣と流守り流く一翌日早朝旅新しく家と出
 一のむ母月花に引きて情をあはれ不え一歎けり低小悲

一真悲是生別離とまゆりあふよ流く志くまきなり去程
 一劉瑤の直に徽州乃城下小なり父が同友吳備と云者方小姓
 一我は商賣小と云くそそりくるよ一流りたれは吳
 一備其志一と恨ひ我は是下の父と兄才よりも親かりし
 一ゆ一帯に自身乃事成心ひ出いよ成長一終るも心と
 一あつりよ一好むる事くまき一と一殊小後一と女抱し
 一本流と備と一と一商賣と方くせくは叔劉瑤妻月花の蚕を
 一巻て過活と一老母小事一と母甚く孝行なり一母大よ
 一悦び書く月花よあふ自身乃やうに幸者一と我は事一
 一の志一骨髄よ徹一と感悦と劉瑤若仕合く一ゆりあ

此身と安樂なりしめ今乃恩と報せしむ。必ぞ退屈の心と起す。
 魚つらきと母と月花をふかき合ふて活よふ。己のこころ
 とさうくはけ時利瑞高愛小利とぬく。こころぬ銀三百貫と賺
 許多の家人とあつて呉備よ別せしむ。好むていふくふく
 南三の山外桑樹山の麓よまじ家人をふ射ひくまや。此より
 我のこころ二里路の路より。されぬ綿と衣て解く。こころ
 わきばぬ小粒と粒束と新布とく。荷物と開く新しき
 衣服と着し。不肖傳とく。二十斗れや。十五六歳の女系は家
 と搦て泣と泣。其声感小後て面白かり。かゝり瑞熱やい
 とさうく心の内よ信やう。我今富を此身とるれ。昔のちる



一、妻女使とて召ひぬべき時若かり彼女の若きふれり
 わづ我もこころ一そと妻は月花は使一せんそと昂家
 と流し一そと同しそとふいあ人の女一人昂ち劉瑶
 が妻月花一人を隣の家れ女子なり劉瑶がとむそと年々同
 妻小遇ざりしゆ其貌と見わとれし新同しせまりそと
 扱彼家人あ人れ女同く日汝若きとれりそと我が自
 那妻一うへあんと作しあ事戸をそとむそと約けり
 小月花若く自しそと夫まうまはそとば一びし
 又は女子あそとあそとそと尚女親とそと我そと曾て
 なまれやそと者そとあり地そと體合のそとそとそと多ひ顧

るすそと桑の影と撮居そとあり劉瑶け言とそとそと中
 妹多そとひあそとそとそと先家小回んとそと其面とそと行そと若金
 一回り老母小見へもは合能事そと具一諸り妻何そとそと
 と同され母悦でそとびそと年月花自そと嘗そとたり我そと
 るひ妹よ夫孝行そとそとそと汝りは合能のそとそと侍院そとそと
 が今日潢の女見そとそと小桑れあそと撮よそとそと女刻のそとそと
 息休そとそとそとそとそとそとそと月た家小回と老
 母一同そとそとび客何そとそとそとそとそとそと母打そとそと同女
 史劉瑶なり小早見志のや今そとそとそと合能のそとそと悔ひ
 あそとそとそと月花頻そと涙そと流そと劉瑶月花そとそとそと今

桑樹山麓 暮らき 極子と約し 昔より 因らば 申小飛の即
 月祝一對してのち 我先刻 途中に 見掛し 正し
 身あり 疾より それと 志る あり 小打 連ゆる 言ふ 見忘れた
 恨れ あり 母より 孝と 言ふ 何より 言ふ 未し 我大の
 祐と 言ふ 仕合と 言ふ 何より 言ふ 未し 我大の
 あり 月花 泪と 流し 月より 原末 賤と 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ
 と 願ひ せん や 言ふ あり 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ
 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ
 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ
 存念て あり 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ

夜密に 樓と 小登り 繩と 心と 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ
 中山の 神現し 押月 花 汝が 心 底と 怨み 今 樓と 小登り 自害
 とんと 欲と 早く 性と 一念と 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ
 劉瑞と 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ
 あり 月花 梁と 繩と 吊頭と 相んと 欲し 夕れ 劉瑞 馳寄て 月
 花と 相ひ 汝何れ 自害とんと 言ふ 我と 恨事 あり 妻の 恨
 と 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ
 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ
 あり 我と 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ 言ふ
 夕れと 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ 願ひ

と者々れ母夫小孫をきり、劉瑤が過と戒めざるより、劉瑤は顧
 も衆と清きく石取存のゆい、断り六月花を小龍
 て怒と休果して、い乃如ん我貴の、前乃んやと、母比和
 眩くくをれなり、老母事して孝と、子孫せと
 業(けり)古今小説小傳あり

新編 東卷之七終

